令和４年度
学校だより

令和５年
１月11日

しおかぜ

佐渡市立
高千小学校

「思いやりと信念をもって根張れる子」を実現を目指す学校

No. 11

「不便」「手間」「苦労」「負担」の価値

校長　白澤　道夫

昨日行った３学期の始業式を皮切りに、53日間の学びが始まりました。
今年度３回目の「学期始め」ではありますが、今学期は、１・２学期とは異なり、次の進学・進級を見据える３ヶ月間であるので、標題について考えてもらい、「今までの自分」を見つめて「これからの自分」につなげてほしいと考えました。

さて、上記の４つの言葉「不便」「手間」「苦労」「負担」について、当初は、全員が「（できることなら）経験したくない。」と答えていました。（大人でもそう思うのは当然です。）
「では、この４つの言葉に価値（＝いいこと）はあるのかな？ないのかな？」と問うと「ある（よね？かな？）」とのつぶやきが聞こえてきました。
そこで、時間をとり、どんな価値がある（ありそう）なのか、話し合ってもらいました。

話し合いの様子やその後の発表からは、実に明快な理論が導き出されていました。

「不便（手間、苦労、負担）だからこそ、『自分がやっていること』の意味が分かる」

子どもたちは、例を交えたり、端的な言葉にしたりしながら説明してくれました。昨年の４月から始めた「言葉まみれ」が、３学期のスタートから発揮されています。

１月４日付の読売新聞に「Ｚ世代アナログに憧れ」というタイトルで、記事が掲載されていました。ＳＮＳやスマートフォンを駆使する若い世代（＝Ｚ世代）が、昭和の時代のレコードやインスタントカメラ、ファッションや玩具等に魅力を感じているそうです。
記事によると、ある企業が、「インスタントカメラやプリントシール機の魅力」について、女子高生にインタビューを行い、その内容を分析した結果、プリントシール機の場合

「友達と撮影して、シールが出てくるまでの『体験』に価値を見いだしている」

ということなのだそうです。
さらに、流行を予測して企業に情報提供する等のマーケティング会社を運営する方曰く

「（Ｚ世代は）デジタルの便利な生活に慣れているからこそ、『手間を大切にしたいという欲求』がある」と分析し、記事では、不便や手間には「価値がある」としています。

人間は、自らの身体と道具を駆使して文化を生み、発展させてきたと考えています。ただし「進化」という観点では、身体よりも道具の方が圧倒的に速く、正確で、美しいです。しかも正しく操作すれば、誰でもできる。まさに「便利」「効率よい」「楽」です。
でも、達成感等、「心底湧き上がる感動」は、味わいにくいのかもしれません。それは世界でただ一人の「私の存在が実感できない」ためだと思います。

３学期では、子どもたちに「自分でできた！」「自分だからできた！」と実感できることをたくさん身に付けてほしいです。そのためには「不便」「手間」「苦労」「負担」に価値を見いだした気持ちを大切にするとともに、周りの人にも伝えてほしいと考えます。
それは、「だからこそ分かる」本当の優しさだと確信しています。